

## 指標 17.13.1

### 指標名、ターゲット及びゴール

**指標 17.13.1** マクロ経済ダッシュボード

**ターゲット 17.13** 政策協調や政策の首尾一貫性などを通じて、世界的なマクロ経済の安定を促進する。

**ゴール 17** 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

### 銀行の総貸付残高に対する不良債権比率

#### 定義及び根拠

##### ○ 定義

**銀行の総貸付残高に対する不良債権比率:** 不良債権額を分子とし、ローンポートフォリオの合計額（不良債権を含みかつ特定の引当金控除前）を分母として計算される。

**銀行の自己資本比率:** 総資産（貸借対照表）に対する中核資本（Tier 1）の比率である。

##### ○ 概念

**銀行の総貸付残高に対する不良債権比率:** 債権の元本又は利息の支払いが90日以上遅延している場合、若しくは債権の全部又は一部について回収の見込みがないことを示すエビデンスが存在する場合に、当該債権はNPLに分類される。分母となるのは、（NPLを含む、個別の貸倒引当金控除前の）債券ポートフォリオの総額である。

**銀行の自己資本比率:** 規制上のTier1資本は、各国の監督実務に応じてバーゼルI、II又はIIIに基づいて算出される。分母となるのは、（リスク加重資産ではなく）貸借対照表上の総資産である。

##### ○ 根拠及び解釈

**銀行の総貸付残高に対する不良債権比率:** 資産内容（質）に関する指標として使用されることが多く、ローンポートフォリオの資産内容に係る問題の特定を目的としている。

**銀行の自己資本比率:** レバレッジ比率よりも厳格な指標であり、自己資金以外の資金による資産の比率を示す、預金受入機関の自己資本比率を示す指標である。

## データソース及び収集方法

### ○ 説明

一般的にデータソースとなるのは、各銀行から監督当局に報告されるデータである。具体的には、貸借対照表、損益計算書、監督上の情報（Tier 1 資本、Tier 2 資本、リスク荷重資産など）が挙げられる。

### ○ 収集プロセス

各国中央銀行又は監督当局により監督目的でこれらのデータが収集されており、そうしたデータを編さんに用いている。

## 算出方法及びその他の方法論的考察

### ○ 算出方法

算出方法については、先の「定義」セクションで詳述している。一般的にデータソースとなるのは、多くの場合で金融健全性指標（FSI）の編さん機関である監督当局に各金融機関から報告されるデータである。

### ○ コメントと限界

ほとんどの国について毎月又は四半期ごとにデータの報告があり、3か月以上の遅れで半年ごとの報告となっている国も数か国ある。

## データの詳細集計

なし

## 参考

URL: <http://data.imf.org/FSI>

## データ提供府省

金融庁

## 関連政策府省

内閣府、財務省

## 担当国際機関

世界銀行